

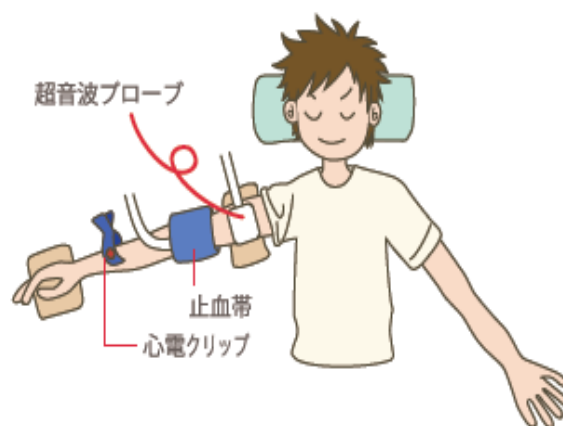
～臨床検査科より～ FMD検査(血管内皮機能検査)について

血管は、加齢とともに内側から変化し、動脈硬化が進んでいきます。また、糖尿病や高血圧は、動脈硬化の進行を早め、心筋梗塞や脳卒中を招くことが知られています。

FMD検査は、血管の一番内側の層である内膜（血管内皮細胞）の機能を診る検査で、自覚症状なく進行する動脈硬化の初期段階を調べる検査です。

<検査前準備>

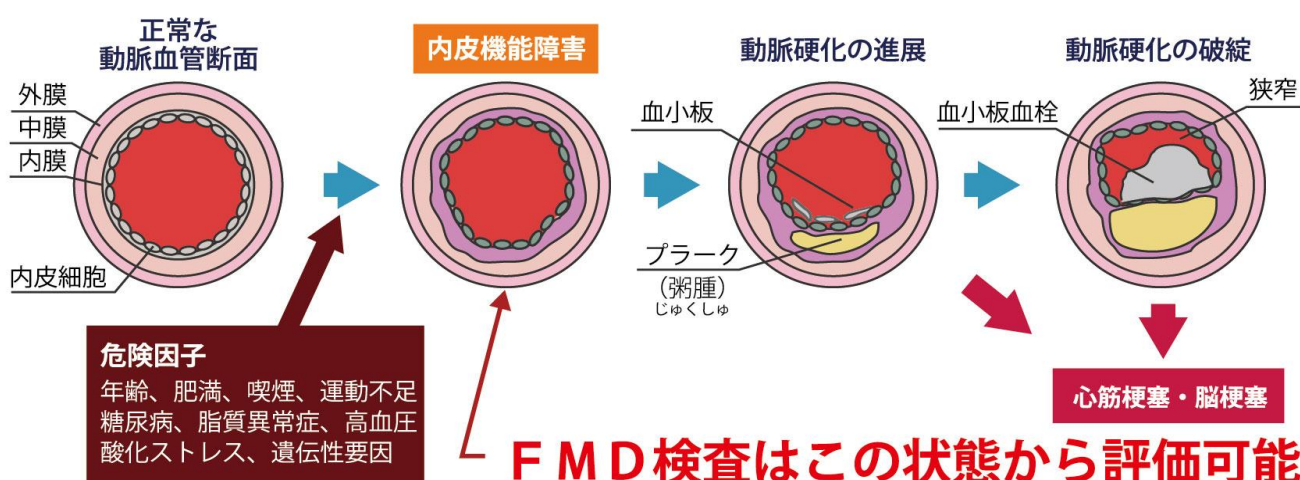
- ・薄着になり、片腕に超音波を当てて、止血帯を巻きます。
- ・ベッドで安静にしてから、検査をします。
- ・検査時間は20分程度です。



<検査の実際>

止血帯で5分間腕をしめ、止血前と血流再開後の血管径の変化を超音波で調べます。動脈は止血後

に血流を再開させると、血流の刺激で血管内皮細胞がしなやか物質を放出し、血管を拡張させます。血管拡張の度合いを測ることにより、血管内皮機能が分かります。



FMD検査はこの状態から評価可能



糖尿病のコントロールには食事・運動などの生活習慣を変えることと、その継続が欠かせません。皆様の糖尿病療養に役立つ情報をこの「糖尿病だより」で発信していきます。